

目指す学校像（ミッション）		深い理解を伴う知識学習を基本とした、心豊かな創造力・発信力をもった国際社会に貢献できるリーダーの育成						
本年度の重点目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的・基本的な内容の十分な理解を基盤とした探究的な学びを深め、多様性や関係性を重視する協働的な学びを目指す 2. 発達段階に応じた学習集団で学び合い、学びの質の向上を図るとともに主体的で深い学びを実現する 3. 一人一人の問いをより広く深く展開できるテーマや題材を設定し異学年活動の質を高める 4. ICTを活用して教育活動を充実させるとともに、保護者の求める情報をタイムリーにわかりやすく発信する 						
評価項目		年度当初		中間評価（10月）		最終評価（3月）		学校関係者評価（令和8年5月） （保護者代表4名・学校代表4名）
		現状と課題	具体的な方策	経過・進捗状況	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題	意見・要望・評価等
1	よりよい授業を目指す授業開発の取組み 授業改善	<p>【P】更に基礎的・基本的な内容の定着度をより高めていきたい。学習指導にAIを活用していく方途も考えていけるとよい。</p> <p>【S】教科の特性に合わせてICTを活用して行くことで、基礎的・基本的な内容の定着度をより高めていきたい。</p>	<p>【P】繰り返しと定着を意識したスパイラル型の授業と家庭学習との調和を図ると共に、学び合いの中で自分の考えをアウトプットして理解を深める機会を増やす。</p> <p>【S】抽象的な概念や現象の理解を深めるために、ICTの視覚化能力を最大限に活用する。また、反復学習に力を入れると共に基礎知識を活用した表現力や技能の定着を図る。</p>	<p>【P】アプリ学習・宿題・小テストなどを活用して、基礎学力の向上が図れている。探究型の授業づくりについても教員間で研究会を開き、共通理解を深めている。</p> <p>【S】授業理解、意見共有などの目的で様々な授業においてプロジェクト等ICT機器を活用した授業が随所で見られる。学習定着を図るために反復学習にも引き続き取り組んでいく。</p>	<p>【P】学園研修の幹事校として授業提案を行い、探究型の授業の実践力を高めることができた。アプリを活用した基礎学力の向上についても一定の効果が見られた。</p> <p>【S】ICTによる視覚化は概念理解の助けとなったが、定着度にはやや個人差が見られた。反復学習や技能への活用の徹底、基礎知識を表現力にまで昇華させる点にはまだ継続的な指導が必要である。</p>	<p>【P】B</p> <p>【S】B</p>	<p>【P】学習習慣の定着、基礎学力のより一層の向上を実現するために、アプリやAIの活用、探究型授業の実践を通して、児童の学習意欲を高める授業づくり・環境づくりを行う。</p> <p>【S】ICT/AIの活用について更なる実践を重ね、基礎学力の向上を図ると共に、児童生徒の思考が深まる「問い」を大切に授業づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、探究型授業を中心に、より質の高い授業を目指して取り組んでいただいていると認識しております。ICT/AIの活用を通じて、児童生徒の学力向上のみならず、先生方の負担軽減（浮いた時間を授業充実に充てていただく）を望みます。 ・AIについては、その利便性とリスクを両面から理解させる教育が必要だと思います。とくに児童生徒には「AIに任せる部分」と「人が考える部分」の線引きを教育していただきたいです。また、自分で考える機会を減らさない取り組みにも期待しております。
2	学年を軸に児童・生徒が主体的に活動する学校生活・学校行事の実現 主体的な活動	<p>【P】学習課題が児童自身の目的意識と連動できるものとなるよう教材を精査し、児童がより主体的に取り組めるようにしていきたい。</p> <p>【S】行事ばかりでなく、日常の教科指導の中で、児童生徒のモチベーションを高めていけるようにしていきたい。</p>	<p>【P】体験的な諸活動を通して他者の立場や思いに興味・関心を寄せ、仲間同士として共通の目的を目指して自他を尊重する心情や態度を育てながら、自らの課題に主体的に取り組む。</p> <p>【S】知的好奇心を刺激する導入と授業展開を心掛け、「できた」「わかる」の達成感を積み重ねる授業創りをする。自律性・主体性を尊重した活動を多く取り入れていく。</p>	<p>【P】各種行事について、子ども達の主体性を活かせるように計画的に運営することができている。</p> <p>【S】定期的な授業研修も経て、目標とする授業創りが、児童生徒の学習意欲や理解度に結びついているところも見られる。子ども達が自ら考え、行動するプロジェクト学習の場面もある。</p>	<p>【P】体験的な諸活動を“やりっぱなし”にせず、他者理解→協働→自己課題への気づき→次の行動へとつなげる学びの循環が探究学習を通して育っている。</p> <p>【S】導入での工夫が奏功し、児童生徒の意欲向上と達成感の蓄積に繋がった。主体的な活動も定着してきた。個々の習熟度に合わせた柔軟な支援体制を整え、全員が確かな達成感を得られる授業創りを一層追求していく。</p>	<p>【P】B</p> <p>【S】A</p>	<p>【P】探究学習を通して構築された学びを、特定の行事や活動に留めず、日常的な各教科の学習にも繋げていく。また、集団での成果を、個々の確かな成長に繋げていく</p> <p>【S】知的好奇心を高め、未知の課題を解決する「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。個々の習熟度に応じた個別最適な学びをさらに推進し、全ての児童生徒が「学びの質」を高められる授業改善に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究学習」を通じて、知的好奇心を高め、未知の課題を解決する「思考力・判断力・表現力」の育成を図ることが、学年によらず開智学園総合部の魅力であり、強みであると思います。 ・他者理解→協働→自己課題への気づき→次の行動へとつなげる学びの循環がより充実したものとなるよう引き続き「学びの質」向上にこだわっていただきたいと思います。
3	異学年齢のよさを活かしたTeamの運営 Teamの充実	<p>【PS】多くの成果を得られているが、今年度は、異学年での学びや生活の中で、児童生徒が相互に人を思いやり、敬愛し、ともに成果を分かち合える集団作りになお一層努めていきたい。</p>	<p>【P】自分自身や相手を大事にするための手がかりをTeamの日常に落とし込み人権を尊重するという事を異学年で学び合う。</p> <p>【S】安心できる関係性の基盤構築し、相互の強みを発揮する活動の設計を心掛けていく。また異学年の中で互いの成果を意識化し次へつなげていく。</p>	<p>【P】各Teamで探究テーマを設定して活動を行うことで、Teamへの帰属意識が生まれ、上級生を中心により良い集団作りに取り組んでいる。</p> <p>【S】運動会などの行事を通して培われた異学年の関係性も互いに高められていく様子が伺えた。引き続き、Teamでの表現創りに繋がっていくことが期待できる。</p>	<p>【P】行事やTeam探究などの活動を通して、上級生のリーダーシップや異学年間でのコミュニケーションを育む場面を多く設定できた。毎日のTeamの日常の中では、自分も相手も大切にしている行動が価値あるものとして認識されている。</p> <p>【S】安心できる関係性を基盤に、異学年交流を通して互いの強みを発揮できた。他者の成果を認め、自身の学びに繋げる姿が随所に見られた。良好な循環を次年度の更なる成長へと繋げていく。</p>	<p>【P】A</p> <p>【S】A</p>	<p>【P】異学年での相互理解と尊重意識をベースに、児童が自らTeamのルールや活動を計画する場面を通して、一人ひとりが集団の中での役割と責任を実感できる場面を日常的に創出する。</p> <p>【S】行事を通して得られた成果を、日常的な生活にも浸透させ、学年の壁を超えて知識や技能を教え合い、互いに高め合う「学び合いの文化」の醸成はリーダーを育てる環境的基盤で、開智学園総合部の魅力であり、伝統であると思います。</p> <p>・今後、学園の在り方が変わることがあろうともこれまで築いてきた開智学園総合部の魅力、伝統が損なわれることなく、進化し続けてくれることを期待しています。</p>	
4	教育環境の充実と保護者や入学希望者への情報の充実 教育活動の充実	<p>【PS】総合部の魅力について、これまで以上に啓発的な広報を行うことで、入学希望者を増やしていきたい。</p>	<p>【PS】SNSやHPでもタイムリーに学校の取り組みを発信すると共に、学校説明会に加え新5年生編入説明会も新たに実施し、志願者数を伸ばす。</p>	<p>【PS】Instagramの運用や動画配信などを通じて、学校の取り組みを広く周知し、説明会動員数も昨年度を上回ることができた。</p>	<p>【PS】HPやSNSでの積極的な配信や幼児教室等への訪問を行った。3校合同入試を無事に行うことができ、近年では一番多い入学者を確保した。新5年生編入の新設も志願者増に寄与し、広報戦略の有効性が実証された。また、保護者会の協力のもとセカンドリーの児童生徒机椅子、総合ホールのカーテンなど更新でき、教育環境の充実も図られた。</p>	<p>【PS】A</p>	<p>【PS】HP、Instagram、LINE、YouTubeなど各種ツールを効果的に活用し、積極的な情報発信を通して、説明会参加者・出願者の増加を図る。また、3校合同入試をアピールし、幅広い認知を獲得すると共に、県内私立小学校と連携し、私立小受験の機運を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報発信、3校合同入試等の取り組みが確実に志願者増という結果に結びついていると感じます。 ・保護者会として教育環境充実に貢献できたこと、光栄に思います。一方で在校生保護者から要望の多い情報発信ツールの一元化や給食については「魅力的な学園」実現に向け今後の改善を期待しております。

◆ 達成度 A：ほぼ達成（8割以上） B：概ね達成（6割以上） C：変化の兆し（4割以上） D：不十分（4割未満）

◆ 【P】とは：プライマリー課程（小学校1年生～4年生） 【S】とは：セカンドリー課程（小学校5年生～中学校2年生）